

## 進捗状況の概要

### I. 全体

全学組織であるコミュニティ・イノベーションオフィスを設置し、そこを中心に全学のマネジメント体制を整え、推進コーディネーター、地域コーディネーター4名を配置した。また、今後の事業協働地域全体が一体となり地域の発展に資する取組となるよう大学等、自治体、企業等に参加を呼びかけ、新たに参加校として千葉工業大学、聖徳大学短期大学部、千葉科学大学、木更津工業高等専門学校の4校、参加自治体として長柄町、南房総市、御宿町、銚子市、館山市の5市町、参加企業等10社を追加した。

推進体制としては、大学連携地方創生推進会議、教育プログラム開発委員会、現地ハブオフィスを立ち上げ、実効的に取組を推進する準備を進めた。これらにより、以下のⅡ～Ⅳの3つの柱で実効的に取組を推進する準備を進めた。

キックオフ・シンポジウムを開催し、延230人の参加者を得て、千葉のCOC+の目指す地方創生のディスカッションが行われ、今後の人材育成、産業振興、若者定着につなげることができた。

学内周知では、学内においてFD/SDを実施し、情報発信と周知が行き届き、本取組の推進を加速させることができた。学外への情報発信は、パンフレットの配布、ホームページおよびフェイスブックにより積極的に実施し、教員、学生、市民と地域における認知と理解を向上させることができた。

### Ⅱ. 地域産業をイノベーションする人材の育成（人材育成）

教育プログラム開発委員会等により教育計画の検討を行い、現地で学修するPBL型の授業、全学共通教育プログラムである副専攻「地域産業イノベーション学（30単位）」、サティフィケート「コミュニティ再生ケア学 地方創生コース（23単位）」の準備を進め、次年度以降に開始できるようになった。副専攻の指定科目は、敬愛大学、放送大学との単位互換制度を活かしたプログラムとし、敬愛大学の学生も取得可能としている。次年度以降の運用により主体的に地方の産業や地域課題を解決する力が身につく地域産業をイノベーションする人材育成することができるようになった。

また、現地で学修する効果的なフィールド・スタディ体験型学習やアクティブラーニングを活用した学習を新たに5科目開講する準備ができた。

### Ⅲ. 千葉地方圏の地域産業において若者に魅力ある雇用の創出・開拓（産業振興）

産業振興の方策の検討を行い、事業協働機関で構成される「ローカルイノベーションコンソーシアム」の設置計画、「地域産業イノベーションスクール」の設置計画、エキスパート人材バンク、産業振興のベストプラクティスのデータベース構築等を立案した。また、次年度に地方創生推進交付金の申請があることから、事業協働機関相互が連携し円滑に事業を実施するためにニーズとシーズを把握しマッチングを行い、千葉大学への委託事業を盛り込んだ申請準備を進めた。

これらの次年度以降の実施により地域産業振興を支援することで、それらの成果が学生教育に役立つとともに、事業協働地域の地域産業への技術支援に寄与し、その結果事業協働地域における雇用を生み出し、若者の地元定着に資することができるようになった。

### Ⅳ. グラデーション定着教育による若者の地元定着促進（地元定着）

若者の地元定着の方策について調査と検討を行い、事業協働機関と連携し、事業協働地域に若者の定着を推進するために、人口減・地方創生に関するセミナー、UIJターンセミナー、地元企業への就職あっせん、地域の情報提供、体験イベント、宿泊体験等の連動・連携した全体計画を検討し、効果的な実行体制、運営方法を立案した。合わせて、セミナー等の開講計画、実施計画を立案し、次年度以降に実施できるようにすることで、学生の地元定着を促進することができるようになった。

また、事業協働地域に所在する高等学校（横芝敬愛高等学校）において「郷土愛」を軸とするキャリアプログラムに関しての調査を行い、その結果をもとに検討し、実施計画を立案した。